北アルプス：伊藤新道（湯俣～新穂高）

◆日程　　2023 年 9 月 30 日～10 月 2 日
◆メンバー　L ： OD、MD、OM

【前夜～9 月 30 日】　天候　晴れのち雨

七倉山荘でタクシーに乗り換えると高瀬ダムまで入れる。林道を長々と歩いた。湯俣山荘で計画書を提出していろいろ質問する。「水俣川（上で北鎌沢が合流する）はおいしいが、赤沢は南部鉄器で沸かしたような味(鉄分多め)湯俣川は大量に飲むとおなかを壊す」「ビバークポイントはどこも狭いので落石注意。途中でビバークするパーティーは２割くらい」「三俣山荘に連絡しておくので、伊藤新道を無事通過したことを申告されたい」と教示を受けた。

ちょっと歩くと噴湯丘で渡渉して見に行った。このあたりの湯俣川の水は真っ黒でところどころ湯が噴き出し地獄さながらだ。この川は硫黄成分のためかコケがなく滑らない。OD さんのアドバイスを受けてフエルト底でなくアプローチシューズにして本当に良かった。

ひさしのような岩の下をくぐるガンダム岩が現れる。膝までの渡渉(目印があるところもある)を繰り返し、だんだん疲れてくる。天気も微妙だ。ビバークポイントごとで話し合ったが、テント横の野湯(「のゆ」。自然に湧き出て管理されていない温泉)で汗を流す誘惑に抗しがたく、野湯のある湯俣川と硫黄尾根からの沢(名称不明、東硫黄沢？)との出合まで行くことにした。ワリモ沢で水を確保し、トンビ岩から高巻きを始める伊藤新道と別れ、湯俣川を進んだ。

野湯の下の出合はナメ状で、ふたつの川の水が混ざって不思議な青色になっている。そこを渡ると小高い場所に野湯があった。野湯だけが目当てでその本も出しているという２人組+ガイドの先客がいた。テントを張り、小雨の中、野湯+酒を試す。少しぬるく、下に硫黄成分が泥のようにたまっていて、浅い。しかし、この至らなさが野湯の野湯たるゆえんであろう。なかなかできない経験を存分に楽しめた。野湯の後はすき焼きで至福だ。充実した一日が終わった。

CT：高瀬ダム 7:25-晴嵐荘 10：00-噴湯丘 11：05-ガンダム岩 12：00-トンビ岩 14：40-野湯 15：20

【10 月 1 日】　天候　雨のち曇り

夜半から雨がテントを叩く。6 時は小雨。沢幅はほんの 4 メートルくらいだが、濁流で渡渉困難。水中を石も転がり流れている。待つしかない。私は野湯に入って待つことにした。雨が強まると湯はぬるくなり、弱まると温かくなった。しかし MD さんが湯元に足湯を築造し、そのせいで常にぬるくなった。出られなくなってしまい、長いこと入っていた。

9 時ころ雨はやみ青空も出るが、渡渉は難しそうだ。昨日渡渉した場所の直下がちょっとした２段の滝になっていて足元をすくわれると厄介だ。ロープがあれば玄倉で練習した三角法でバックアップできるが、事前情報による判断で不要としていた。

11 時にお茶を入れて作戦会議。渡渉について①昨日と同じ場所を徒渉する案、②2 段の

滝をへつりながら下りてその下の広い川原で渡渉する案があった。渡渉後のことは③トンビ岩まで戻って伊藤新道に入る案、④手前の赤沢を遡行して伊藤新道に入りロスタイムを取り戻す案があった。①はリスクがある、④は赤沢の状況を見てから、とした。

12時前ころ、MDさんは実際に見に行って②に否定的見解を述べた。水がひいて川底が見えてきたことから、まずは①を試すこととした。陸上で騎馬戦のような形でスクラムを練習して、フォーメーションを検討し、ヤバければ戻ることを確認して水に入った。1歩目は水深があり水流を感じたが、3人で支えあった。2歩目は浅くなり拍子抜け、渡り切ることができた。状況への対応は万全だったと思う。

少し下ると赤沢との出合に出る。もっと下だと思っていたがすぐだった。登りと下りの距離感の非対称性を思った。赤沢はさほど水流がなかったので、遡行してみることとした。高度計を見ながらこの辺かというところで「みどりのホース」と呼ばれる顕著な目印があって、伊藤新道に復帰した。茶屋と呼ばれるポイント(ビバーク不適らしい)を通らず、ショートカットに成功した。

赤沢から三俣山荘まで標高差は地図上で700mあり、ハードな急登を山靴に履き替えて進んだ。展望台から稜線歩きになり少し楽になる。庭園を過ぎ、カブリ岩をくぐると、今度は鷲羽岳の山腹をトラバースするようになる。途中で双六小屋が見えた。2,3の水場があって、進行方向の稜線に人が歩くのが見え、さらにその左にはオレンジ色の何かが動いていた。後で確認すると三俣山荘の吹き流しだった。ようやく傾斜もゆるくなって、あたりを見回すと素晴らしい紅葉に気づく。鷲羽からの稜線に合流し、三俣山荘に着いた。

CT：野湯11：40-赤沢出合12：00-みどりのホース12：30-展望台13：40-庭園14：30-カブリ岩14：50-稜線分岐15：40-三俣山荘15：45

【10月2日】　天候　晴れ

日程を合わせることができず、烏帽子岳方面に向かう2人とテント前で別れ、新穂高までの単独行となった。双六岳からは薬師沢方面が見え、楽しかった夏の赤木沢の山行を思った。双六岳からの下りは真正面の槍ヶ岳に招かれて歩いているようで、楽しかった。

鷲羽の方を見ると山腹を切る伊藤新道がくっきりと見えた。水晶小屋と双六小屋との間で2人と無線がつながったが、その後は私が高度を下げたので、つながらなくなった。

新穂高温泉から松本までのバスは午後1時40分の次が4時55分発で、早いバスに間に合うかとも思ったが、新穂高で風呂に入った方がいいと思い直した。バス停の隣の中崎山荘(観光案内所で割引券をもらえる）で入浴したが、濃い硫黄泉でそのにおいには食傷気味だった。

CT：三俣山荘5：00-三俣蓮華岳6：00-双六岳7：30-双六小屋8：40-鏡平小屋10：25-新穂高温泉14：00　　（記：OM）